

■（６８）大相撲

2014. 1. 10

相撲に「大」の字が付くと、日本相撲協会による相撲興行——平たく言えばプロ相撲という意味でも使われます。大相撲には年6回ある本場所の他に、地方巡業や「福祉大相撲」「大相撲トーナメント」「全日本力士選士権大会」などがあります。

本場所は1月（初場所＝東京）、3月（春場所＝大阪）、5月（夏場所＝東京）、7月（名古屋場所＝名古屋）、9月（秋場所＝東京）、11月（九州場所＝福岡）に開かれます。いずれも、その月の第2日曜日からの15日間という場合がほとんどですが、2013年の名古屋場所のように第1日曜からの場合や、同秋場所のように第3日曜から始まる時もあります。今年の初場所は1月12日からです。

これらの本場所の前日、朝日新聞はスポーツ面の1ページのほとんどを使って、番付表を載せています。15日間分の「○」印があり、勝ち（○）、負け（●）の成績（星取り）を記入できるようになっているほか、それぞれの力士の通算成績、出身地などが記されています。また、その場所で達成可能な記録も挙げられており、記録がいつ達成できるかを予想しながら日々の勝ち負けを記録する楽しみがあります。

この本場所に合わせて、15日間の「学習場所」に取り組んでみてはどうでしょう。朝日新聞の番付表を元にして、たとえば、東方を男子、西方を女子、あるいは出席番号順に東西に分けて氏名を書き、家庭学習が2時間以上だった日は○、2時間未満だった日は●、まったく勉強をしなかった場合は「や」（休み）とするなど、星取りを記入していくのです。また、相撲が起源になっている言葉について学ぶのもよいでしょう。「勇み足」「うっちゃる」「金星」「三役」「仕切り直し」「四十八手」「序の口」「土俵際」「番付」「独り相撲」「まった」「胸を借りる」「四つ（に組む）」など、相撲の用語が一般に使われるようになった言葉は多くあります。これらを探させたり、意味を調べさせたりするとよいでしょう。

（鈴木伸男 全国新聞教育研究協議会顧問）